

# 六華ぞ窓に

(平成七年度賽歌)

宇野直哉君 作歌

永田将人君 作曲

## 一

六華ぞ窓に刻まれる  
灯灯ともされて  
家家の街に散るほど  
まみえんとすは  
迷走の土と初なる乙女  
鈍き銀なる空の下  
暖かき片隅求むる若人等

## 二

時効なき戦争裂かれたる  
一会の愛の光芒と  
新興の今何かを思う  
世にふる柳の薄緑  
岸に萌えただよい  
しだれて音もなく

## 三

白き岩肌がいなとり  
登りて伝う水の城  
折しも巖の潤い映えて  
光の花の冠受くを見ゆ  
この灼熱よこの碧水よ  
たどりこし我等が  
魂まで飛沫せよ

## 四

別る道を限りとて  
露けき草にさし入るも  
月日に添えてうち紛れず  
思い乱るる面影に添う  
友の一言軽からず  
肝胆相照らしき  
月影燦然と

## 五

残照長く尾を引けば  
安らぎ満ちて夜の声  
さらば我が土中の碧の  
その重みこそ出会いし歡喜  
新たな一歩しるしつづ  
忘るまじ清き  
華かなる憧れを